

MRI 検査についての問診・同意書

1・検査室に入る前の準備と注意点について

強い磁石を用いていますので、体内・体外の金属類の確認を行います。

				担当者チェック欄✓	
記入日（ 年 月 日）				確認者	技師
1.	心臓ペースメーカーを使用している	☐ はい	☐ いいえ		
2.	神経刺激装置を使用している	☐ はい	☐ いいえ		
3.	移植蝸牛刺激装置（人工内耳）を使用している	☐ はい	☐ いいえ		
4.	脳動脈瘤クリップが入っている	☐ はい	☐ いいえ		
5.	水頭症手術によるシャントバルブが入っている	☐ はい	☐ いいえ		
6.	磁石で装着する義眼、磁石部分が脱着不能な義歯を使用している	☐ はい	☐ いいえ		
7.	眼球内金属粉混入（職業・事故等）したことがある	☐ はい	☐ いいえ		
8.	入れ墨やアートメイクなどを施している	☐ はい	☐ いいえ		
9.	その他何らかの金属が入っている「 」	☐ はい	☐ いいえ		
10.	妊娠中もしくは妊娠の可能性がある	☐ はい	☐ いいえ		
11.	閉所恐怖症（狭い空間が苦手）ですか	☐ はい	☐ いいえ		

※上記項目で「はい」にチェックがある場合、担当医師に検査可能か確認すること
医師
確認済 (チェック欄 ☐)

11. の項目（閉所恐怖症ですか）で「はい」を選択された方の 鎮静剤使用 医師確認 （ 要・不要 ）

2・検査室に、以下の物を持ち込むと壊れ、検査に影響を及ぼす事があります。

金属物： 携帯電話・時計・補聴器・眼鏡・鍵・ライター・ヘアピン・アクセサリーなど		
磁気カード： キャッシュカード・テレフォンカード・定期券など		
その他： エレキバン・カイロ・貼付剤（湿布・鎮痛剤など）・血糖値センサー（リブレ） 入れ歯・カラーコンタクト・マグネットネイル・遠赤外線下着・金属の付いた下着 一時染毛料（増毛パウダー・白髪染め染毛料）・医療用ウィッグ		

3・腹部・骨盤部 で検査される方へお聞きします。

画質向上の為に以下の薬剤を使用する事があります。

- 1) ブスコパン（腸管の蠕動による動きを抑え、腸管・骨盤検査の画質を向上させます。）
（排尿障害ある前立腺肥大・重篤な心疾患・緑内障・出血性大腸炎・麻痺性イレウスは禁忌）

☐ 使用できません

- 2) ボースデル（画像上、腸管の信号を抑え、腹部検査の画質を向上します。）
（消化管の穿孔又はその疑いのある方・本剤に対し過敏症の既往歴のある方は禁忌）

☐ 使用できません

<MRI 検査同意書>

私は MRI 検査を受けるにあたり、検査の目的や注意事項について説明を受け、納得しましたので MRI 検査を受けることに同意します。

同意日： 年 月 日

患者氏名： (代理人名： 続柄)

検査日付 年 月 日

検査説明者

問診確認者

検査担当技師名

MRI 検査についての説明・注意点

MRI（磁気共鳴画像）とは強い磁石と電磁波を用いて撮像する検査です。
撮像中は工事現場のような大きな音がしますので、耳栓等を用いて検査します。
検査にかかる時間は 20 分～40 分です。検査中、痛みはありません。

<MRI 検査の危険性について>

- 1・体内および体外の電子機器（心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器、両心室ペースメーカー、人工内耳、神経刺激装置、等）は MRI 検査によって破損や誤作動を起こすことがあります。
- 2・体内に埋め込まれている金属は MRI 対応（チタン・セラミック等）であれば MRI 検査可能です。ただし、埋め込まれている金属周辺は、画像評価が出来ない事があります。
- 3・MRI 対応ペースメーカー装着者の検査については、事前に MRI 検査ができる様、業者の方に調整をして頂かないと **そのままでは検査はできません。**
- 4・水頭症に対して、脳室腹腔短絡術（VP シャント術）、腰椎腹腔短絡術（LP シャント術）という手術が行われ、この手術を受けた方は MRI 検査後に圧調整が必要な場合があります。
- 5・入れ墨やアートメイク（目の周り、眉毛に入れる刺青）は着色に金属を用いている場合があります。火傷や変色する可能性があります。
- 6・カラーコンタクトレンズは着色に金属を用いている場合があります。目に火傷を負う可能性があります。安全に検査を受けて頂く為、検査前にはずしていただきます。
- 7・磁石を利用した義歯は、装着したまま MRI 検査を行うと磁力が低下する場合があります。
- 8・妊娠初期（14 週未満）の方は十分な安全が確認されていないため注意が必要です。
- 9・閉所恐怖症や狭い空間での検査に不安や精神的な苦痛をもたれる患者さんに対して、当院では基本的に休憩をはさみながらの検査、又は鎮静剤（眠くなる注射）を用いての検査を行います。鎮静剤を用いての検査は稀に重篤な有害事象（呼吸抑制、呼吸停止など）の応急処置が必要となる事があるので主治医とよく相談して下さい。

*** 検査当日、ご自身で運転して来院された場合は鎮静剤をご希望されても使用できません。**

<検査当日のお食事やお薬について>

- 1・腹部（肝臓、膵臓、胆のうなど）の検査の方は、午前の検査は朝食を、午後の検査は昼食を取らないようにして下さい。前日夜からの絶食は必要ありません。

*** 食事制限のある方は、当日のお食事・お薬については主治医にご相談ください。**

- 2・膀胱検査は、検査前に排尿をしないで下さい。
- 3・常用薬はいつも通りに服用してください。

<患者様へのお願い・お知らせ>

- 1・検査予約時間の 30 分前には、当院へお越しください。（検査前の準備があります。）
- 2・造影検査で腎機能を事前に調べる場合は 1 時間前には、当院へお越しください。
- 3・予約時間に遅れた場合は、予約最後の時間になります。また、緊急検査などにより検査開始時間が多少遅れる場合があります。ご了承ください。
- 4・検査中はブザーをお渡しします。違和感や気分が悪い場合はブザーを握って下さい。